

川柳 さいたま



六十里越え

2019年
11月号 (No.720)

日川協加盟

巻頭言

数学の美について

願法みつる

なぜか数学の世界が好きである。日進月歩に進化変化するゆらぎの世界より、理路整然とした数学の理論世界が、絶対性への憧れかも知れない。単純な理屈なのだが、三角形の内角の和が百八十度。尖った三角とかも平べったい三角という変化はあっても百八十度。公式は永遠普遍。これは数学だけが有する世界だ。数学者はそこに、美の感動を覚えるのだそうだ。物理や化学などの世界にはない、つまり経済的には何ほども利を生まない至高の世界だ。しかし人間は、感動を求める動物らしいから、転変する物質化した世界では、心を癒やす詩歌や音楽や文学などの普遍の芸術性に興味を示すのではなからうか。その意味で、数学者の思考世界は芸術的な感性にも合うらしい。たった一行の公式の発表に至る道は苦難。そしてその解法に挑む数学者が後を絶たない。つまり定まった公式には幾通りもの解法があるらしく数学者は挑戦する、そのためかどうかは知らないが、某数学者は俳句的な短詩世界がお気に召すのだとか。なんとなく意を強くする見解である。俳句や川柳の世界もまた、数学的な思考で美に挑戦してみたら如何。学術的な世界との交情という自信を持つことは可能かも。多様な用語という変数の世界はあるけれど。

日日是好

願法みつる

愛すべし奇人変人数学者

金儲け下手で川柳やってます

変人と気付かないまま凡の人

毎朝の鏡マコトを語らない

結局は円周率の中の人